●執筆者

西　　和夫	事業推進担当者、神奈川大学日本常民文化研究所教授
山口　建治	事業推進担当者、神奈川大学外国語学研究科中国言語文化専攻教授
齊藤　隆弘	事業推進担当者、神奈川大学工学研究科電気電子情報工学専攻教授
夏　　宇継	共同研究員、神奈川大学歴史民俗資料学研究科非常勤講師
八久保 厚志	共同研究員、神奈川大学人間科学部准教授
平井　　誠	共同研究員、神奈川大学人間科学部准教授
鄭　　美栄	共同研究員、筑波大学大学院生命環境科学研究科外国人受託研究員
藤永　　豪	2005年度COE共同研究員、2006年度COE調査研究協力者、佐賀大学文化教育学部講師
津田　良樹	共同研究員、神奈川大学工学部建築学科助手
菊池　勇夫	共同研究員、宮城学院女子大学学芸学部教授
増野　恵子	2004年度共同研究員、2005年度COE調査研究協力者、早稲田大学非常勤講師

ISBN　978-4-904124-09-3

神奈川大学21世紀COEプログラム
「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書

非文字資料から人類文化へ

――研究参画者論文集――

発行日
2008年3月20日

編集・発行
神奈川大学21世紀COEプログラム
「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1　TEL 045-481-5661　FAX 045-491-0659
URL http://www.himoji.jp/

制作　有限会社あむ　　**印刷**　共立速記印刷株式会社

Printed in Japan
ⓒ神奈川大学21世紀COEプログラム2008　非売品
著作権者の文書による許諾がないかぎり、法律が認める場合を除き、本書の全部もしくは一部を複製すること、あるいは送信公開することを禁じます。

神奈川大学21世紀COEプログラム

人類文化研究のための非文字資料の体系化

2002年度から文部科学省が開始した「21世紀COEプログラム」は、世界的な研究拠点を構築するための大学支援策であり、大学院博士課程を持つ大学がその対象に採択されることを目指して競うこととなった。私どもの「人類文化研究のための非文字資料の体系化」は、2003年度に学際・複合・新領域の分野で採択された。この計画は、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科と日本常民文化研究所、それに大学院外国語学研究科中国言語文化専攻が加わり、学際的に研究事業を展開する構想であった。実施に当たっては、事業推進担当者に加えて、COE教員及びCOE共同研究員を制度化し、研究課題にかかわる学内外の多くの研究者に参加を要請し、共に研究に従事してもらい、目的を達成することにした。

今までの文化研究では文字に記録された事象に専ら関心が集中してきた。しかし、文字に表現されない人間の観念・知識・行為ははるかに幅広く、質量ともに大きい。それは文字で表現された事象とは比較にならない。私たちの事業は、これらのなかから①図像、②身体技法、③環境・景観の三つに絞って、それぞれの事象について資料化する方法を開発し、その結果として資料を蓄積し、蓄積した資料を分析して発信することを目的としたものである。それぞれに幾つかの具体的課題を設定した。その組織は以下の通りである。

第1班　図像資料の体系化と情報発信
　課題1　マルチ言語版『絵巻物による日本常民生活絵引』の編纂刊行
　課題2　日本近世・近代生活絵引の編纂
　課題3　東アジア生活絵引の編纂
第2班　身体技法および感性の資料化と体系化
　課題1　身体技法の比較研究
　課題2　用具と人間の動作の関係の分析
第3班　環境と景観の資料化と体系化
　課題1　景観の時系列的研究
　課題2　環境認識とその変遷の研究
　課題3　環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解読

そして、これら三つの非文字資料を統合し、世界に向かって発信する方法を開発することを課題に、以下の三つの研究班を編成した。

第4班　地域統合情報発信
第5班　実験展示
第6班　理論総括研究

研究事業参画者は班・課題に属し、目的達成に向かって共同研究を展開した。その研究成果は、すでに各種の刊行物やホームページで順次公開してきたが、その最終成果をデータベースや各種情報のウェブ上での発信や展示という方法で世に問い、また多くの研究成果報告書として刊行することとした。本書はその研究成果報告書の1冊である。

なお、本プログラムのもうひとつの目的として、世界的に活躍することができる若手研究者の育成がある。COE研究員（PD・RA）制度を設け、優れた若手研究者を採用し、研究活動に従事してもらうようにした。海外での調査研究を行なうための派遣や、研究成果を発表する機会を設けた。若手研究者の育成は、研究員を支援するだけでなく、拠点となる歴史民俗資料学研究科や中国言語文化専攻の研究教育条件を整え、カリキュラムを充実させ、前期課程（修士）から足腰の強い学生を養成することも構想し、具体化した。

5年間の研究を経て、私たちの拠点が世界の研究者とのネットワークを形成し、様々な形態の非文字資料を集積し、それを世界の人類文化研究に提供する非文字資料研究センターとしての役割を果たすことを構想している。本プログラムへの批判や提言を積極的にお寄せいただければ幸いである。